

課題名	コロナ禍前・初期・3年目で生活習慣病関連因子はどのように変化したか
承認番号	2022-40 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 健診センター 氏名 伊藤 美奈子
研究期間	(西暦) 2023 年 2 月 ~ 西暦 2023 年 12 月
研究の意義・目的	<p>新型コロナウイルス感染症が人類に与えた影響は計り知れないほど大きく、未だ終息の気配が感じられません。</p> <p>我々は以前に、新型コロナウイルスの蔓延開始から数か月という比較的短期間に、人々の活動量は減少し生活習慣病関連因子は悪化した。睡眠時間は増加したこと、若年者や男性で腹囲が増加しやすく、腹囲増加の関連因子は飲酒習慣の悪化、朝食習慣・夕食習慣の改善であることを報告しました（伊藤美奈子ほか 新型コロナウイルス感染症は生活習慣病関連因子に影響を及ぼしたか？ 人間ドック 36(2)：326-326, 2021）。</p> <p>人類の生活様式を一変させた新型コロナウイルスの流行前、コロナ禍初期、コロナ禍 3 年目で生活習慣病関連因子に差があるかどうかを分析することで、パンデミックのようなインパクトにより人々の生活や行動がどのような影響を受けるのかを明らかにします。それらが明確にできれば、生活習慣指導の留意点が判明し適正で効率的な保健指導の提供につながると考えられます。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>下記 3 期間すべてで当センターにおいて人間ドック健診を受けられた方を対象とします。ただし、分析に必要なデータ（身体計測値・血液検査データ・生活習慣に関する情報）が欠損している方、下記期間中に高血圧、脂質代謝異常症、糖尿病、高尿酸血症の治療を開始または中断した方、下記期間中に悪性疾患と診断された方は除外します。</p> <p>期間① 2019 年 6～9 月（コロナ禍前） 期間② 2020 年 6～9 月（コロナ禍初期） 期間③ 2022 年 4～10 月（コロナ禍 3 年目）</p> <p>期間①②③における身体測定値、血液検査データ、生活習慣を個人ごとに比較し、3 期間の変化について分析します。</p>
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	<p>本研究に携わるすべての研究者は「ヘルシンキ宣言」、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施します。また、研究対象者の安全と人権を損なわない限り、本研究計画書を遵守します。医学雑誌や学会に発表される場合はプライバシーを保護するために、受診者の方の氏名、生年月日、住所など、個人を特定できる情報は公表せず、外部に漏れることのないよう厳重に取り扱います。本研究で抽出したデータは本研究のみに利用し、データは個人が特定できる情報を切り離した上で使用します。本研究の対象となる方からデータ使用不可の連絡があった場合、その旨を記録し解析には用いません。また、その場合も受診者の方が不利益を被ることはありません。</p>

<p>利用又は提供する 試料・情報の項目</p>	<p>人間ドック健診カルテ情報（年齢、性別、受診日、身体計測値、血液データ、問診票） いずれも既存の情報であり、新たにご提供いただく試料・情報はありません。</p>
<p>試料・情報を 利用する者の範囲</p>	<p>本研究に携わる横浜市立みなと赤十字病院の健診センター職員</p>
<p>試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)</p>	<p>横浜市立みなと赤十字病院 所属 健診センター 氏名 伊藤 美奈子</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 健診センター 氏名 伊藤 美奈子 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) /FAX:045-628-6101</p>